

**生活支援体制づくり協議体会議（地域包括支援センター於呂
担当圏域レベル）開催報告書**

1 開催日時	令和 8 年 2 月 25 日（水） 10 時 00 分 ～ 11 時 30 分
2 開催場所	中瀬協働センター 講座室
3 参加者	20名（委員10名、事務局3名、関係機関7名）
4 協議の内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長挨拶（生活支援体制づくり協議体会長）</p> <p>本年度最後の生活支援体制づくり協議体となる。前回に引き続き、つながりの希薄化、居場所作りを中心に話し合い、具体的取組みを検討したいと思う。</p> <p>先般、浜北医師会と地区社協との連携研修会があった。地区社協からは家事支援、移動支援等の活動報告、包括支援センターからは認知症の現状と家族の支援について発表があった。市の高齢者福祉課からは認知症の人や家族の地域資源に題してのお話があった。地域福祉は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるようにお互いが支え合い助け合う支援体制が必要である。</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 令和7年度生活支援体制づくり協議体の取組みについて</p> <p>事務局から別紙（A3サイズ）の於呂圏域現状一覧を用い、前回の振り返りを行った。前回の意見をまとめ、具体的な取組みを6つの項目にわけ、協議をする。</p> <ul style="list-style-type: none">① 「交流」「居場所」の実態把握② 地域の中の各団体の連携・協力③ 支援を必要とする人（一人暮らし高齢者等）をどの様につなげていくか④ 近隣同士が支え合う関係作り⑤ 生きがいや役割の創出⑥ 活動者の情報共有・学びの場 <p><意見></p> <ul style="list-style-type: none">・サロン等の出席率は高いが、毎回参加される方は同じになってしまう。75歳以上の方が多く、もう少し若い世代が多くなってくればと思う。・新しい方をどのように誘って増やしていくか。顔見知りになれば参加しやすくなると思うが、そのような状況作りが大切になってくると思う。

・地域カフェを1年間行なった。居場所が必要な方が地域に何人居るのかなど調査をせず始めたため、必要性が分からず拡がりにくい状況がある。また、参加者全体での交流が少なく、それぞれのグループで固まってしまっているといった問題点を共有しながら来年度へ向けて引き継ぎを行なっていきたい。

・シニアクラブ：参加される方はだいたい決まっているが、中学校の太鼓クラブに来てもらった時は、地域の方が大勢見に来てくれた。シニアクラブだけでなく、地域の方が参加してくれるイベントを考えていきたい。

・地区社協：地域内で子ども食堂の立ち上げたいという話がある。継続して行える支援体制を考えていく事が課題ではないか。また、子ども食堂は増えており、居場所やつながりのひとつとなる。

・参加者が高齢化しており、足がないから行けないという方が多い。

・地域福祉会、自治会、民生委員で友愛訪問を行なっている。回数は少なくとも日々の積み重ねが大事で、顔見知りになっていくという事が大切。

・つながりにも色々な形がある。

・市場調査を行ない対象者の課題等を知る事は大切。

・イベント等は対象者を限定するのではなく地域の方全体で実施することが大事。

・つながりは直接人と人が顔を合わせる事もそうだし、話はしたことはないがあそこに1人暮らしの方が居ると把握する事もつながりだと言えるのではないかな。

・訪問に行き地域の活動に参加しているか確認すると「そんなのあったの？」という方がいらっしゃる。70代半ばまで働いてきた方は地域のサロン等を知る機会がなかった。回覧を回してもしっかりと見ていない。掲示板に掲示しても車で走ってしまい見ていないという現状がある。

・ラインを使って班の回覧をするようにしたら、スムーズに連絡がつくようになった。現在ロコモの参加者が少ないので、参加者を募ったら少し増えた。ラインもその人だけではなく、家族皆に見てもらえるような工夫が必要。

・自治会連合会でもホームページを作成するところも増えてきている。メディアを使用しての周知の方法もみんなに知らせていく必要があるのでは。

・回覧は色々なチラシが集まってから回すため、チラシの枚数が多く必要な情報を見落としがち。

・対象者に向けてピンポイントでお知らせ出来れば良いと思うが、ピンポイントの対象者をどの様に把握するのが課題⇒ロコミで情報を広げてもらう為には、まず顔見知りになってからつながりが出来る。そうする為には何かから先にやっていけば良いのかが迷う所。みんなが集まる場所の提供、家に出向かう等の活動をする事で顔を合わせる機会をどう作っていかないといけない。そこからがスタートになるのかな？

・施設は365日運営。デイサービス等使っていない日の場所の提供は可能ではないかと

思うが、確認が必要。

認知症カフェも月1回行なっている。利用者さんからは交通手段がないという声が一番多い。施設の車両の活用についても地区のサロン等の送迎等を検討することはできるが、使用許可や運転手の確保など課題がある。人員の問題も出てくる。

・社会福祉法人として地域との結びつきを行なわなければいけないが、何をやっていけばよいのか分からないのが現状。世代間のつながりを作っていくには子供達を巻き込んでいく事で、親御さん達とも顔見知りになり、つながりを広げていけるのではと思った。

・行政：移動支援については他の協議体でも話し合っており、情報共有している。課題解決の取り組みの実現に向けて動く時には後方支援という形になってしまうと思うがやらせてもらいたい。

・移動支援については一生懸命協議してきても、「責任問題などをどうする？」で終わってしまう。万が一ばかりを考えると前に進まなくなってしまう。1歩踏み出さないと何もはじまらない。

<まとめ>

・「つながり」といっても、色々な形がある。市場調査を行ない、実態把握をする事で何が課題なのかが見えてきて、アクションを起こす事が出来るのではないかな？

・特技がある方を把握して、サロンなどで活動してもらうことも取り組みのひとつ

・「皆さん当たり前に行っている事がつながりには大切な事になっている事がある。そういった活動や知識等が見える形にしていければ・・・」

例) 地域福祉会で行なっている日常の見守り活動(1人暮らしの高齢者の方。電気が点いているか、新聞紙がたまっていないか等)

防災訓練の一環として、班長が1軒1軒回って安否確認を行なった。黄色いハンカチを玄関先に出してもらって確認(全世帯)

4 その他

退任委員あいさつ

5 今後の見通し・ 必要な対応

・次回開催日程⇒役員交代等があるため、年度が変わってから事務局で調整。

・今回決定した方向性をもとに、新年度からは具体的な取り組みについて検討する。